

G3 のツイッター その 65

烈剛河内 竹井 保満

去る 7 月 6 日に、百舌鳥・古市古墳群が、国内で 23 番目の世界文化遺産に登録されました。関係のある堺市、羽曳野市や藤井寺市は悲喜こもごもです。古墳の付近には、広告塔や高い建物などが建てられないし、色々な制限が設けられます。従って、土地の値段は安くなります。今回、世界遺産に登録された 49 基の古墳の中には、宮内庁が管理しており市民の立ち入りを禁止し整理されているものもありますが、子供の遊び場になったり、梅や桜を植えて花見を楽しんだり、市民の生活に組み込まれたものも有ったり、堀が下水の溜まり場になって、年々古墳が崩れているものもあります。そのような壊れている古墳は、当該の市が修復をするようで、市の予算にも組み込まれ市も大変です。古墳にかこつけて市の名前を売りたいならば、百舌鳥・古市古墳群とせず、堺・羽曳野・藤井寺古墳群として登録してもらったべきだったと思います。

古墳と称するものは全国には約 4000 基も存在します。中にはただの小山だったり、盛り土だったり城壁だったり、古墳と称するものはいい加減なものだと考えます。今回登録された堺市の仁徳天皇陵も宮内庁は仁徳天皇の陵とされていますが、過去の調査結果、ほかに二つのお墓がこの仁徳陵にあることが分かっています。ですから、天皇を祀ったものか地方の豪族を祀ったものか、御用学者が勝手に決めたもので確定できるものではありません。発掘調査をすることによって、歴史的にも文化的にも意義があるものと考えます。

話は少し変わりますが、現在、大阪の府知事や市長さんらが、大阪府を大阪都にしたいと運動をしていますが、大阪府に都があったことがお解りでは無いようです。仲哀、応神、仁徳みんな難波の宮の天皇です。難波の宮が奈良や京都よりも古い都であり、昔は大阪が日本の中心で有り首都だったのですから、今更、大阪都・大阪都と騒ぎ立てる必要はないと考えます。それよりも、国民 100 才時代です。至便な場所に老人ホームを建てたりヘルパーさんを養成して下さい。

8 月の 4 日に第 7 回大阪マスターズ陸上競技会が、服部緑地陸上競技場でトラックとフィールドの競技が行われました。奈良や和歌山、兵庫や滋賀、京都などから 342 名の競技者が集まりました。当日の気温 35 度で快晴、私は投擲 5 種に出場しましたが、やり投げや砲丸投げなど 5 種目を競技するので朝の 9 時過ぎから午後の 5 時前まで、炎天下で頑張りました。90 歳以上は私が一人でしたので、新記録で 5 種目を独占できました。

自分では日頃から体は鍛えられているから大丈夫と思っていましたが、炎天下の長時間の競技は心身ともに限界を感じました。関節はガタガタ、筋肉痛、するめのように干された皮膚の痛み、もう少し色々対策を立てて出場すべきであったと反省しています。

「後の後悔先にたたず」